

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都稲城市立向陽台小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0803
東京都稲城市向陽台3丁目2番地

E-mail kou-e0001@educet01.plala.or.jp
Website http://academic3.plala.or.jp/kou-e/

幼児児童生徒数 男子 195名 女子 189名 合計 384名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、地域がもつ特色を踏まえ、持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を育むことを目標とした。

具体的には、①栽培活動、②「ふるさと向陽台」の地域学習③福祉体験学習、④防災学習を行った。

①栽培活動

- ・花(1年)野菜(2年)梨・ぶどう(3年)・人権の花(4年)米(5年)花(6年)の栽培活動
- ・校内の敷地(学級園)を活用して各学年で栽培活動に取り組んだ。
- ・特に米の栽培活動では、田植え、稲借り、収穫、もちつきを子供達の手で行い、藁の活用も調べ全員でお正月のしめ縄作りを行った。

② 「ふるさと向陽台」の地域学習

- ・学校周辺の公園に行き、草木の生長に触れるなどして季節を感じ自然に親しむことができた。(1, 2年生)
- ・学区内にある養老施設「いなぎ苑」を訪問し高齢者との交流活動を行った。(1年生)
- ・ふるさとである向陽台を知るために、地域のお店に行きお店の人にインタビューするなどして交流活動を行った。(2年生)
- ・地域安全マップづくりで、地域の街の様子を調べたり、お店の人と交流したりして、地域への理解が深まった。(3年生)
- ・校内に設置されている施設、子ども家庭支援センター「あそびの広場」で赤ちゃんとの直接の触れ合いを通して、幼児への理解が深まった。(4年生)
- ・地域の方から向陽台の歴史を聞いたり、地域にある神社(妙見寺や堅神社など)を調べたりして、地域の歴史を理解することができた。(3年生)

③ 福祉体験学習

- ・社会福祉協議会による車いす・白杖体験を実施し、障害者の方の大変さを理解することができた。(3, 4年生)
- ・パラリンピックアスリート(ゴールボール選手)の方を招き、講演「夢に向かって」を聞き、実際にゴールボールの競技体験を行った。

④ 防災教育

- ・隣接中学校での避難所運営訓練の様子を見学し、防災ノートを活用して防災意識を高めることができた。(全学年)

① 梨栽培(3年)



② お店にインタビュー(2年)



③ 白杖体験(3年)



③ ゴールボール体験(4年)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

② ユネスコスクールとしての活動の教育課程での位置付け

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>教育課程での位置づけ</p> <p>学校の教育目標を達成するための基本方針から</p> <p>持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進し、地域住民・保護者と連携・協働して学校教育を行う。</p> <p>(7) 学校支援コンシェルジュを活用し、地域住民や自然・施設と関り合う体験的な学習を推進し、地域社会の一員としての自覚を高める。</p> <p>(イ) 土曜授業や保護者・地域住民参加授業を公開するとともに、学校ホームページや学校便り等で情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。</p>

③ 学校全体での体制

※チェック事項 1-4 に対応

学級担任（各学年 1 名）、専科担当教員（1 名以上）、通級指導学級担当教員（1 名以上）からなる ESD 推進委員会を組織し、ESD 全体計画及び年間指導計画（ESD カレンダー）をもとに、教育活動全体で取り組む。

④ ユネスコスクールとしての活動評価

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価（年 2 回）

- ・ 児童アンケート評価項目
 - 栽培活動や市内・地域のことなど楽しく学習することができた。
- ・ 保護者アンケート評価項目
 - 学校は「ふるさと向陽台」の学習（向陽台や百村、野菜、梨、葡萄・稲作等）をすすめている。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容

※チェック事項 2-2 に対応

学校便り、学年便り、学級便りで、活動の様子を頻繁に発信している。HP で情報発信したいところであるが、現在、HP の不具合があるため情報発信が不可能となっている。

⑥ 学校以外の団体との交流

※チェック事項 2-3 に対応

地域のお店、幼稚園・保育園、地元の神社、自治会、体育振興会、青少年育成会など、学校近隣との繋がりは、強いものとなっている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流

※チェック事項 2-4 に対応

現在、市内（稲城市）の学校（小学校 12 校、中学校 6 校）は、全校ユネスコスクールに登録しているので、相互に情報交換はできている。現在のところ本校は市外や外国との交流は行っていない。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果

※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 児童アンケート評価項目
 - 栽培活動や市内・地域のことなど楽しく学習することができた。
⇒ 90%肯定的評価
 - ・ 保護者アンケート評価項目
 - 学校は「ふるさと向陽台」の学習（向陽台や百村、野菜・梨・葡萄・稲作等）をすすめている。 ⇒ 95%肯定的評価
- 児童も保護者もふるさと向陽台の学習については、良い評価を頂いている。

(3) 平成 30 年度の活動計画

【日本ユネスコ国内委員会】＜文部科学省 HP を基に作成＞

1 ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」とは環境、貧困、人権、平和、開発など、現代社会の課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally) ことによりそれらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。⇒ 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

(1) ESD の実施に必要な 2 つの観点

○人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと

○他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと⇒そのため、環境、平和や人権等の ESD の対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要

2 ESD で目指すこと

(1) ESD の目標

○全ての人が高質の教育の恩恵を享受すること

○持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること

○環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

(2) 育みたい力

○持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重 等）

○体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）

○代替案の思考力（批判力） ○コミュニケーション能力 ○データや情報の分析力 ○リーダーシップの向上

(3) 学び方・教え方

○「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること

○単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとること

○活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

(4) 我が国が優先的に取り組むべき課題

先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく。（「我が国における「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」実施計画」）